

2022.04.28. 木曜礼拝 神の懲らしめを拒否するとき

エレミヤ書 5 章

JD ファラグ牧師

こんばんは。主を称えます。お座りください。ようこそ。皆さん、今夜はお元気ですか？ OK, 良かったです、良い返事ですね。それでは。皆さん今夜お越し下さり、大変嬉しいです。オンラインでご参加の皆さんも、歓迎したいと思います。今夜はエレミヤ 5 章です。木曜日の夜は、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに読み進めています。木曜日の夜は、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに読み進めています。これまで 1 章ずつ進めています。急ぎません。神が私たちのために用意されたものを、急ぎ足で読み進めたくありません。では祈りましょう。神の御言葉の中で共に過ごす時間を神が祝福して下さるよう求めましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。

主よ、本当にありがとうございます。木曜日の夜にここに来ると、とても励まされ、リフレッシュし、落ち着くことさえできます。私たちの多くは、ただあなたを礼拝し、互いに交わるこの時間を、とても楽しみにしています。そして今、私たちが聖書を開き、あなたの御言葉に触れるとき、主よ、私たちは、あなたが語られることを聞きます。私たちはただ、あなたが私たちの人生に語りかけ、いつものように、聖霊のあの静かで小さな声を聞くことを切望しています。だからこそ、私たちは今夜ここにいます。あなたに飢え渴いているからです。あなたがお語りになることを聞く必要があります。ただ聞くだけでなく、心に留める必要があります。ですから主よ、今夜、あなたの御言葉の中で共に過ごす時間を祝福してください。こには、あなたが私たちに示し、語りたいことがたくさんあることを知っています。あなたが用意してくださっているものを、何一つ見落とさたくありません。ですから、私たちの思いが彷徨わないように、私たちの注意を保たせてください。主よ、私たちは、今夜ここに来たときとは違う姿で、ここを去りたいと思います。先ほどカポノが祈ったように、私たちの多くはストレスを抱え、疲れ、生活の忙しさがあります。主よ、これは私たちの慰めになります。これは私たちにとっての聖域です。この時間は、そのようなことをすべて脇に置いて、ただひたすらあなたに注意を向ける時間なのです。ですから、主よ、今夜私たちはそうしたいのです。私たちが共に過ごす時間の中で、あなたがしてくださることに、前もって感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。主よ、感謝します。それでは。この 5 章では、神は預言者エレミヤを通して、私たちが神の懲らしめを拒んだときに必ず起こることを、生々しく詳細を描写しておられます。神は預言者エレミヤを通して、私たちが神の懲らしめを拒んだときに必ず起こることを、生々しく詳細を描写しておられます。もう一度、今週もお伝えしなければなりません。もう一度、今週もお伝えしなければなりません。先週もこのことについてお話ししましたが、非常に重要なことなのです。というのも、この章には、本文にある警告から自分自身を切り離すという傾向が伴うからです。というのは、私たちはこれを読むことができ、神の御言葉のこのような章を学ぶことができますが、私たちは、「これは当時の彼らのためのものだ」という旗印のもとに、自分たちをそこから切り離そうとするのです。「今の私たちにはあまり関係ないことだ」と。これは、神の裁きであり、神の懲らしめです。民は神の御言葉に耳を傾けなかったのです。そして、私たちが今夜、この神の御言葉の中で読むものを、悲しいほど見過ごしているのです。そして私たちは自分の人生に適用しません、なぜなら、率直に言って、それが私たちの生活に当てはまるとは思えないからです。そうすると、残念なことに、このような断絶が生じるのです。これから見るように、この断絶は、神が私たちを正すために、私たちの主への愛の代わりに、主への恐れを用いなければならない時に関するものです。この話をする前に、少し説明する必要

があるかもしれません。私たちが神を愛しているからこそ、神に従順に歩んでいる時があるのです。イエスが仰った言葉が思い出されます。

「もしわたしを愛しているなら、わたしの戒めをまもるはずです。」(ヨハネ 14:15 参照)

そしてそれは、「本当にわたしを愛しているならば、わたしに従うだろう」というようなものでもないのです。もっと、こんな感じです。「わたしを愛しているからこそ、わたしに従順になるのです。」言い換えれば、「わたしへの従順さは、わたしへの愛によって測られるのです。」そしてそれは、信者の人生において、どういう意味合いを持つのか。私たちはただ主を愛しているので、主を悲しませるようなことはしたくないのです。主に反することは何もしたくないのです。それほど主を愛しているからです。確かに、それが従順の動機となるのです。しかし、主への愛が従順の動機となるのではなく、主への恐れが従順の動機となる場合もあるのです。そしてそれが、この1節から実際に見ていくことです。

エレミヤ5

1 エルサレムのちまたを歩きめぐり、見て、知るがよい。その広場を尋ねて、公平を行い、真実を求める者が、ひとりでもあるか捜してみよ。あれば、わたしはエルサレムをゆるす。

2 彼らは、「主は生きておられる」と言うけれども、実は、偽って誓うのだ。

まずは2節から、そして1節に戻りましょう。この彼らが言うような、「主は生きておられる」というのは、現代で言えば、似たような言い方でこんな感じでしょうか、「神に誓って」「聖書に誓って」もしくは、これを聞いたことがありますか？ 言ったことがあるかもしれませんね。「聖書の山に誓って」いいですか、聖書の山に誓うのなら、あなたの言葉には何の意味もないはずですよ。そんなことをしてはいけません。

「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」とすべきです。そうですね？ (マタイ 5:37 参照)

しかし、これが彼らのしていることです。そして彼らはそのように偽って「主は生きておられる」と言っていたのです。「私は誓います。神が私の証人です！」そんなことをするのは、偽っているからなのです。さて、「主は生きておられる」という言葉に繋がる1節はどうでしょうか？ レミヤは神から、ただ一人でも、正しい人、真理を求める人、裁きを行う人を見い出せるかどうか、エルサレム中を探してみるようにと言われたのです。これが神が仰っていることです。「もし一人でも見つけるなら、わたしはエルサレム全土を赦す。」アブラハムがソドムについて神に懇願した時と似ていると思いませんか？ ラハムの甥ロトが、ソドムにいました。アブラハムは主に懇願し始めるのです。

「主よ、もし40人の正しい人がいても、あなたはこの町を滅ぼされるのですか？」(創世記 18:29 参照)

主はこう言われます。「いや、もし40人の正しい人がいるなら、わたしはこの町を滅ぼしはしない。」そして、アブラハムは懇願を続け、40人から下げていき、興味深いことに10人で止めました。疑問なのは、なぜアブラハムは10人で止めたのか？ しかしたら、アブラハムは、ソドムには少なくとも10人の正しい人がいるはずだと思ったのかもしれません。そして、10人もいなかったのです。そしてここでは、一人もいないのです。「一人でも見つかるかどうか、上から下まで、広い場所で探して見なさい。」

3節。

3 主よ、あなたの目は、真実を顧みられるではありませんか。あなたが彼らを打たれても、痛みを覚えず、彼らを滅ぼされても、懲らしめを受けることを拒み、その顔を岩よりも堅くして、悔い改めることを拒みました。

これはエレミヤの主への返答です。次に見るように、エレミヤはまだ、一人でもいるかどうか、探し続けているのです。ここでは、民に代わって主に叫んでいるのです。そして率直に言って、エレミヤは驚愕し

ています。エレミヤはこんな感じです。「あなたは彼らを正し、彼らを打たれました。しかし、彼らには悲しみや嘆きはありません。あなたが彼らを滅ぼされても、彼らはまだ懲らしめを受けることを拒んでいます。実際に、彼らはあなたの懲らしめを受けないだけでなく、さらに心を硬くしているのです。そして、帰って来ることを拒んでいます。」私はこれを、「泣き叫び」と呼びます。それは、祈りというか、泣き叫びのようなものです。主に祈っているのではなく、ただ泣き叫んでいる時がありますよね。泣き叫びであり、懇願です。それがここで、エレミヤがしていることです。4節。

4 それで、わたしは言った、「これらはただ貧しい愚かな人々で、主の道と、神のおきて（裁き）を知りません。

5 わたしは偉い人たちの所へ行って、彼らに語ります。彼らは主の道を知り、神のおきて（裁き）を知っています」。ところが、彼らも皆おなじように、くびきを折り、なわめを断っていた。

言い換えると、「私は探し続けています。分かりました。貧しい人や愚かな人の中から探すのはやめます。彼らは知らないから。もしかしたら、学問のある人、偉い人から探した方が良いかもしれない。彼らに語ろう。彼らは主を知っている。主の道を知っている。彼らは神の裁きを知っている。しかし、彼らでさえも、皆同じだった。私は一人も見つけられなかった。彼らは皆、くびきを折った。」私が今夜の説教を用意していると、特にこの2節に思いを馳せていて、これがエレミヤの心なんだと、はっとさせられました。この人の心の中を垣間見るような気がします。つまり、エレミヤは自分が置かれているこの困難な状況を必死に理解しようとしているのです。エレミヤはそれを真に受け、心を痛めています。富める者も貧しい者も、偉大な者も小さな者も、くまなく探しても一人も見つけることはできないのです。そして、無駄であり、うまく行きませんが、それはまるでエレミヤが、彼らのために言い訳をしようとしているようです。「ああ、それはもしかしたら、ただ単に、良く分からないからかもしれません。彼らは主の道知らないんだ。必ずしも言い訳にはならないが、何らかの形で説明できるかもしれない。」弁解を考えようとしているのです。皆さんこれを理解したかどうかは分かりませんが、すぐに神は民に対する裁きについて、民に対して論じているようなのです。それは正当な裁きだと。最初の4、5節では、神が「さあ、正しい人がいるかどうか見て、裁きを下す前に私のところに戻ってきなさい」と言っているようなもので、ほとんど正当な過程なのです。エレミヤはそうして、主の元に戻って来ます。エレミヤはこんな感じです。

「私には理解できません。私には分かりません。胸が張り裂けそうです。解決しようとしても、できません。彼らは知らないのです。彼らは皆、くびきを折ってしまった。」6節。

6 それゆえ林から、ししが出てきて彼らを殺し、荒野から、おおかみが出てきて彼らを滅ぼす。ひょうは彼らの町々をねらっている。そこから出る者はみな裂かれる。…

なぜか？なぜなら…

…彼らの罪が多く、その背信がはなはだしいからである。

7 「わたしはどうしてあなたを、ゆるすことができようか。あなたの子どもらは、わたしを捨てさり、神でもないものをさして誓った。…

特に、7節の最後の言葉に注目していただきたいと思います。

…わたしが彼らを満ち足らせた時、彼らは姦淫を行い、遊女の家に群れ集まった。

思い浮かべてください。これは生々しいです。彼らは、実際に遊女の家に入るために列に並んでいたのです。このことは、神が彼らを十分に祝福し、繁栄させ、十分に養われた後に起こったのです。ここでさら

に、生々しいものを見ていきます。またこんな言い方をするのをお許してください。彼らは太って生意気になってしまうのです。それって問題ですよ？ 分に正直になれば、私たちは皆、豊かな時には、主から離れるという傾向があることを認めざるを得ないと思うのです。なぜ私がこんな風に言うのか、言い方が良くないのは分かっているのですが、神に問題があられるのではなく、神が抱えておられる問題は、神は私たちを祝福したいと願っておられるのですが、しかし、私たちを祝福することで、その祝福と豊かさ
と繁栄の中で、私たちが主から離れる大きな可能性があることも知っておられます。これは私が長年、主とともに歩んできた中で見えてきたことです。自分の人生の中で経験してきました。確かに、聖書を通して教えてきたように、聖書には、繁栄は実は逆境よりも危険であると繰り返し書かれているのを見てきました。なぜなら、逆境の中では、主に信頼しなければならぬからです。主に目を向け、主を呼び求め、主に頼らなければなりません。しかし、繁栄の時には、自分の豊かさ、自分の財産を信頼するようになります。それは、主からあなたの心を遠ざけてしまいます。それが、主がここで仰っていることです。

「見て見ぬふりはできない。あなたをこのままにしておけない。あなたはわたしを捨て、他の神々を追い求め、豊かさ
と繁栄の中で、恐ろしい、言いようのない性的不道徳な行為を行ってきたのです。わたしはここで、あなたを十分に祝福しました。足りないものは何もなかったのです。何不自由なかったのです。わたしはあなたを豊かに祝福しました。そしてその祝福が、呪いとなってしまったのです。」

なぜなら、神の御手からの祝福が、今まさに、言わば「私に免許/license を与えた」ことになり、そこから「放縦/licentiousness」という言葉が生まれたからです。神は私を祝福し、私がこの豊かさを手に入れると、私たちの心はさまよってしまう傾向があるということです。8節。これはかなり絵になります。

8 彼らは肥え太った丈夫な雄馬のように、おのおの、いなないて隣の妻を慕う。

9 わたしはこれらの事のために彼らを罰しないでいられようか。このような国民にあだを返さないであろうか」と主は言われる。

このことは、以前にもお話しましたが、今がそのことを思い出す良い機会だと思います。エレミヤの時代と同じように、こんにちの私たち、私たちの国にも、多くの預言的な類似点があるのです。繰り返しますが、これは絵に描いたような、よく肥えた、欲に満ちた雄馬のイメージなのです。主は再び、その民に対する正当な裁きを論証しているのです。考えると、これはゾッとしますね。というのは、こんにちの私たちに当てはまるからです。神はこの国を裁くべきではありませんか？ 神はこの国をこれらと同じことで罰しないでしょか？ これは、裁きがかかるというメッセージです。「わたしはあなたに警告しようとした。あなたに懇願した。わたしはあなたを正し、向きを変えようとしたが、あなたはそれを拒否しました。あなたはわたしのもとに帰って来なかった。あなたの背信は増し加わった。あなたの心は、悔い改めによってわたしに対して柔らかくなることはなかった。むしろ、わたしに対して、さらに硬くなった。」同じ熱を、ここでまたすぐに見ていきます。火は、固めることも溶かすこともできます。同じ火が、硬くもできれば、柔らかくもできるのです。温めたり、燃やしたりすることができます。同じ火です。

10 「あなたがたはユダのおどろの並み木の間を、のぼって行って、滅ぼせ、ただ、ことごとく滅ぼしてはならない。

ああ、主よ、このことに感謝します。これは神の憐みです。このことは先週見ました。また後で見ることになります。神がこう仰っているのです。「はい、破滅はやって来ます。裁きはやって来ます。

しかし、完全に破滅させられることはない。なぜなら、わたしはあなたを回復させるからだ。わたしには、まだあなたへの計画がある。わたしはまだ、あなたとの関係を終えていない。わたしはあなたを懲らし

め、あなたを正している。しかし、わたしはあなたを完全に破壊させることはしない。

…その枝を切り除け、主のものではないからである。

11 イスラエルの家とユダの家とはわたしにまったく不信であった」と主は言われる。

これはまた、4章で見たことがあると思います。初めて読んだときには、簡単に見落としてしまいます。私もそうでした。すると、主がそれを私に確認させられました。なぜなら、主は私たちの主への対応や扱いに目を留められるからです。そのように考えたことがありますか？ 私たちはどう主を扱っているのか？「待ってください、何て？」そうです、主にどう接しているのか。神が仰っていることに注目してください。「あなたがわたしにしたことは、裏切りです。それがあなたの私への接し方です。あなたはわたしを不当に扱いました。」自分にだけ言う必要があるかもしれませんが、これは非常に罪を示されることです。というのも、私の言動が主にどのような影響を与えるか、しばしば全く考えもしないことがあるからです。いかに主を悲しませるのか。ああ、私が主を裏切っていると言われることがないように、神に願います。私は主を祝福したいです。主にとって祝福となりたいです。私たちはいつも「主よ、祝福してください」と祈りますが、このように考えたことはありますか？あなたが主を祝福するのは？「私はあなたを祝福します、主よ。」「主よ、私はあなたとの関係において、あなたに喜ばれたいのです。主よ、私はあなたを祝福したいのです。私の人生は、あなたに祝福となっていますか？ 私の生活は、あなたとの接し方において、あなたを喜ばせていますか？」12節。これは興味深いです。これにはご辛抱ください。

12「彼らは主について偽り語って言った、『主は何事もなされない、災はわれわれに来ない、またつるぎや、ききんを見ることはない。』

13 預言者らは風となり、彼らのうちに言葉はない。彼らはこのようになる』と。」

わお...ここでエレミヤが言っていることが分かりますか？ 預言者は嘘つきだと、言っているのです。嘘をついているのです。どんな嘘なのか？ ああ、預言者たちは、神の裁きについて嘘をついているのです。「いいや、違う。悪い事は起こらないさ。裁きは来ない。違うさ、そんなこと起こらないよ。剣や飢饉なんて、見ることはないよ。」そしてこの13節では…2人の解説者が同じことを述べていました。私はそこにこだわっています。こんなイントロはどうですか？「預言者らは風(wind)となり…」windbags/おしゃべり、いやいや、彼らは大ぼら吹きだ。彼らは嘘をついているのです。彼らは人々に、「そんなこと起こらないよ」と言っているのです。「神はそんなことなさらぬ。すべて大丈夫。」そしてあなたは、彼らが本当に、神は自分たちを裁かれぬと信じるほど欺かれているのか、疑問に思います。彼らはどうやってそこにたどり着いたのか？ なぜなら、神は怒るのに遅く、神は寛容で、忍耐強く、誰も滅びることを望んでおられません。(IIペテロ3:9参照)悪人を裁くことを喜ばれません。神は常に恵みの側で語られ、人々に悔い改める時間を与えられます。ここで問題があります。私たちは同罪です。ここから自分自身を切り離さないようにしましょう。問題は、私たちが神の忍耐、神の恵み、神の寛容を、神からの許可だと誤解していることです。

「まあ、大したことはないのだろう。私はまだ祝福されているし、まだ繁栄しているし、物事はうまく行っている。」神の寛容と忍耐と憐みと恵みを旗印に、大丈夫に違いないと誤って解釈するのです。それはこんな感じです。「神は見ても見ぬふりをして、この件に関しては見逃してくれるのかもしれない。」もしかしたら、そのようにして、彼らはこの考えに行き着いたのかもしれませんが。分かっているのは、彼らが偽りの預言をしたということです。この章の終わりには、彼らが主について嘘をついたことを見ることとなります。それはすべて嘘です。いいえ、神の裁きは彼らに下るのです。そして、剣がやって来ま

す、飢饉がやって来るのです。それって興味深いですよ？ 繰り返しますが、ご辛抱ください。それには理由があるのです。牧師として、これは問題だからです。なぜなら、最初に読んだときには、簡単に見落としてしまうからです。「彼らのうちに言葉はない」ですから 13 節にあるように、「彼らのうちに言葉（御言葉）はない」と言われるような牧師がいるのです。彼らは、偽教師です。彼らは偽りを話し、嘘をついているのです。彼らは本当に、純粹に心の底から信じているのだろうか？ 私は疑問を投げかけているのです。答えは分かりません。私はこの問題に関して、何度も主に尋ねました。繰り返しますが、これは問題なのです。彼らは本当にそう信じているのか？ 彼らは自分たちの言っていることを信じるほど盲目で、欺かれているのだろうか？ なぜなら、それは神の御言葉に書かれていることではないからです。そして悔しいことに、「彼らのうちに御言葉はない」という結論しか出てこないのです。彼らは御言葉を宣べ伝えていません。それもそのはずです。そこには大きな違いがあるからです。ご辛抱ください。聖書を参照することと、聖書を教えることには、大きな違いがあります。そして...こんにちの世界は、説教壇の後ろに立って御言葉を説かない牧師に対して、最も厳しいのです。なぜなら、牧師のうちに御言葉がないために、教会にいる人々は、御言葉を聞いていないのです。人生に嵐が襲う時、襲った時、人々はどうするのか？ それは最後の節なんですが、ちょっと先走りすぎましたね。あなたはどうするのか？ あなたには備えがなく、準備不足なのです。なぜなら、あなたは御言葉を持っておらず、御言葉を知らなかったからです。イエスが教えられた二人の建築家のたとえが思い浮かびます。(マタイ 7:24-27 参照) 人生が崩壊するのは、御言葉や御言葉の参照を聞いても、それを実行に移さなかった人です。それが違いです。娘が亡くなったときのことを考えます。私たち夫婦が御言葉に堅く、根ざしていなかったら、私たちは乗り越えられなかったでしょう。ところで、統計がそれを裏付けています。子どもの死を経験した夫婦の 90%以上が離婚に至ります。夫婦が子どもの死を経験したときの痛みはとて深く、強烈です。もし私たちが御言葉に根ざしていなければ、御言葉を、神の御言葉を知り、御言葉の神を知っていなければ、私たちは決して乗り越えられなかったでしょう。これは、涙の預言者エレミヤの心に通じるものがあります。このために、エレミヤは泣いているのです。これは胸が張り裂けそうです。クリスチャン、キリストにある兄弟姉妹が人生の嵐に遭遇したとき、十分な備えをしていないのを見ると、胸が張り裂ける思いがします。なぜなら、教えられていないからです。彼らは神のご計画のすべてを与えられていないからです。使徒パウロが語ったことのように。ルカが使徒の働きに記録しています。

「私には責任はない。私は誰の血に対しても責任がありません。なぜなら、私は神の御言葉のすべてを、余すところなくあなたがたに与え、教えたからです。(使徒の働き 20:26,27 参照)

御言葉以外の何ものでもなく、御言葉のすべてを。なので助けてください、神よ。つまり、聖書の中からある部分だけを選んではいないのです。違います。私は聖書のすべてを教えました。厳しいものでも、きつい部分も、難しいことでも。教えたくありませんが、しかし、その必要があるのです。そして、あなたにも必要なのです。」

さて、この章では、非常にハッとするような節がいくつもあります。私は自分自身のことを話しているのかもしれませんが、自分自身に向かって、いわば説教をしているのかもしれませんが。しかし、これを十分に強調することはできません。私たちは最も厳しい時代に生きているのです。そして、こういう教師は後を絶ちません。もしかしたら、私が個人的に捉えすぎているのかもしれませんが、私は毎週、私の特権としてここに来て、剣が来ること、飢饉が来ること、裁きが来るという真理を語らないという許可は得られません。神の裁きは来ます。近づいています。なぜか？ なぜなら、御言葉の中に書いてあるからです。

そして、私の中に御言葉があります。御言葉が私の内にあります。では、14節を読みましょう。

14 それゆえ万軍の神、主はこう言われる、「彼らがこの言葉を語ったので、見よ、わたしはあなたの口にあるわたしの言葉を火とし、この民をたきぎとする。火は彼らを焼き尽す。」

わお、神よ、ありがとうございます。ちょっと、整理させてください。1章では、いきなりこのようなことが書かれていましたね？

「あなたは私の口に、あなたの御言葉を置かれたので、それを語らねばなりません。そして今、あなたは、あなたが私の口に入れられた御言葉が、火のように燃え上がると仰っています。そして、私が語る相手は、木のようにになると。わお…！」

私がこれを話したら、教会は残らないですよ。彼らを食い尽くすのです。このことはお話ししたと思いますが、もう一度共有するのが適切でしょう。私の心からの想いです。私の心から、皆さんの心へ。ある意味では、私は理解しています。弁解するわけではありませんが、エレミヤのように、ある意味では説明することができるかもしれません。なぜ牧師は御言葉を教えないのか？ もしかしたら、それが火になり、燃え、焼き尽くし、食い尽くすと知っているからかもしれません。人々は聞きたがりません。しかし、聞く必要があります。人々のいのちはそれにかかっているのです。15節。

15 主は言われる、「イスラエルの家よ、見よ、わたしは遠い国の民をあなたがたのところに攻めこさせる。その国は長く続く国、古い国で、あなたがたはその国の言葉を知らず、人々の語るのを悟ることもできない。」

もちろんバビロンのことです。この預言が与えられた約40年後だったと言われています。バビロンは、神が言われたとおりにやって来て、エルサレムを破壊し、神の民を捕虜にしたのです。

16 その籐は開いた墓のようであり、彼らはみな勇士である。

17 彼らはあなたが刈り入れた物と、あなたの糧食とを食い尽し、あなたのむすこ娘を食い尽し、あなたの羊と牛を食い尽し、あなたのぶどうの木といちじくの木を食い尽し、またつるぎをもって、”あなたが頼みとする”堅固な町々を滅ぼす。」

「あの豊かさ、繁栄を覚えていますか？ わたしはあなたを十分に祝福し、十分に繁栄させました。」ここにいくつか詳細があります。「わたしはあなた方の作物の収穫を祝福し、あなた方が食べるパンを手に入れることができるようにした。わたしはあなたがたの家畜、群れ、牛を祝福した。わたしはあなた方のぶどう畑、ぶどうの木、いちじくの木を祝福した。わたしは、あなた方の建物や町を防衛する能力さえも祝福した。ところが、あなたがたはわたしが与えたものに、信頼を置くようになってしまった。堅固な町々、豊かなぶどうの木、いちじくの木、群れ、鳥、収穫、作物に。それらをもって祝福したのはわたしなのに。それをどうするのか？ あなたは、わたしの代わりに、わたしがあなたに与えたものを信頼し始めるのです。」

そして、次に見ていくのは…18節。

18 主は言われる、ここで再び、神の憐みです。「しかしその時でも、わたしはことごとくはあなたを滅ぼさない。」

19 あなたの民が、『どうしてわれわれの神、主はこれらのすべての事をわれわれになされたのか』と言うならば、あなたは彼らに答えなければならない、『あなたがたがわたしを捨てて、自分の地で異なる神々に仕えたように、あなたがたは自分のものでない地で異邦の人に仕えるようになる』と。」

なんという皮肉でしょう。「あなた方は自分たちの地で、異国の神々に仕え、礼拝した。これからあなた

方は、異国の地に捕虜として連れて行かれる。そこには、たくさんの神々がいるだろう。」それが神が仰っていることです。そして、神の懲らしめを拒むとこうなるのです。私たちは神の警告に耳を傾けません。神は、私たちが仕え、信頼してきたそのものに、私たちを引き渡すことが必要だと判断されるのです。

「ああ、あなたがたはこれらの異国の神々が好きなのか？ あなたがたはその神々に仕え、頼るために自分の地に、これらを持ち込んだ。わたしはこうしよう。それらを存分に味わってもらおう。異国の神々が好きなのか？ わたしはバビロン人にあなたがたを捕虜として連れて行かせる。あなたがたは、まだ異国の神々を見ていない。まだ何もわかっていない。彼らの土地で、あなたがたが仕え、信頼するためにある異国の神々の数々を見るまで待っていなさい。パウロのコリント人への手紙について、私は考えていました。愛に関して、愛とは何か、何が愛ではないのかをその箇所を日曜日に参照したと思います。パウロは、教会の中で公然と性的な罪を犯していたこの人物について、彼らを叱責しました。自分たちはとても愛情深く、受容的であるという旗印のもと、彼らはそれを容認し、許していたのです。パウロは言います。

「それは愛ではない。もしあなた方は、本当に彼を愛しているなら、あなたがすることは、彼を教会から追い出すことだ。そして彼の肉が破壊されるために、彼をサタンに引き渡すのだ。それが、彼が正気に戻り、悔い改めに至る唯一の道だ。」(I コリント 5 参照)

そして、その人は悔い改めたのです。ある意味、神はここでこう仰っているのです。

「このまま放っておくわけにはいかない。これを容認することはできない。わたしはあなたをあまりにも愛している。これにあなたを委ねなければならない。あなたは、これを存分に味わい、そして、あなたは正気に戻り、悔い改めるだろう。しかし、これが必要なのです。」

つまり、簡単な方法か大変な方法かということです。そして、どうやら私たちは、簡単な方法ではできないようです。ですから、神は不本意であられながら、大変な方法をとらなければならないのです。神がこのようなことをなさるのを喜んでおられるとは、決して想像してはいけません。あえて言うなら、神はこのような事態を避けるために、あらゆる手段を尽くされ、止むを得ずなさるのです。神がご自分の子どもたちがバビロンに捕虜になることを望んでおられると思いますか？ しかし、それが必要であるなら、他に選択肢はないのです。「あなたは方はわたしに選択の余地を与えなかった。わたしはこれをしなければならない。」20 節。

20 これをヤコブの家にのべ、またユダに示して言え、

21 「愚かで、悟りもなく、目があっても見えず、耳があっても聞えない民よ、これを聞け。

22 主は言われる、あなたがたはわたしを恐れないのか、わたしの前におののかないのか。わたしは砂を置いて海の境とし、これを永遠の限界として、越えることができないようにした。波はさかまいても、勝つことはできない、鳴りわたっても、これを越えることはできない。

ここで2つほど考えを述べます。まず、この嘆願です。いわば、この問いかけ。神はこう仰っています。

「わたしを恐れないのか？ あなた方はわたしを愛していないのでわたしに従わない。しかし、少なくとも、わたしを恐れはしないのか？」

主を恐れることは、知恵の始まり。(箴言 9:10)

主を恐れることは、悪を憎むこと。(箴言 8:13)

「わたしを恐れないのか？ 海は恐れてるのに。あなたはわたしと戦っている。わたしに勝てるわけがない。波が打ち寄せ、荒れ狂う海、それらは唸り声を上げるが、決してわたしに打ち勝つことはできない。

それをやろうとしているのか？ わたしに勝てると思って、あなた方は戦っているのか？ わたしを恐れないのか？」皆さん分からないと思いますが、これは大変な章です。皆さん「あなただよ！ 私たちはどうなる？」という感じですね。分かっています。すみません。－（笑）－ 何と言えるでしょう。それは真実です、教えるのは大変です。教えられるのも大変なはずです。私たちの目には、神への恐れがないのです。それしか説明がつかないのでは？ つまり、もし私が本当に主を恐れ、主の御前でおののいているのなら、主の御前にひれ伏すことでしょう。それが主への恐れというものです。私たちが「神を恐れる」ことについて話す時、誤解があると思います。「おお、神を恐れなければ…！」といった感じです。全く違います！ 主を恐れるとはどういうことか知っていますか？ そう、それは神がどれほど聖いお方で、偉大なお方なのか、畏敬の念を抱くことです。しかし、それはまた、神を悲しませるようなことは決してしたくないという恐れでもあるのです。それが主を恐れることです。神の御心を傷つけるようなことをするのが怖いのです。もっと身近な描写に持ち込んでみましょう。夫婦関係の中で、これを考えてみてください。私は妻を本当に愛しています。妻をとっても愛しています。妻も私のことを好きみたいです。私は彼女をとっても愛しています。いいですね？ そして私は、彼女を傷つけるようなことをするのが怖いのです。それほど妻を愛しています。日曜日にこのことについて話しました。

「あなたの心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」（マタイ 22:37 参照）

もしあなたが、それほど主を愛しているなら、初めの5つの戒めは、完了です。主以外に、他の神々をもつことはしません。自分のために偶像を作り、それにひれ伏すことはしません。確実に、あなたの神である主の御名をみだりに口にすることはしません。あなたは神の安息に入ります。そして敬うのです。地上の父と母を敬うのですが、しかし、それは天の父を敬うことに比例します。繋がっています。そして、2つ目はそれと似ています。隣人を自分のように愛すること。（マタイ 22:39 参照）

もし私が、それほどまでに隣人を愛しているなら、隣人から盗もうとしたり、欲しがることはしません。なぜなら、彼らを愛しているからです。何をするにも恐れます。恐怖に震え上がります。それほど深刻に受け止めます。愛する人を苦しめるようなことは何もしたくないからです。それが主を恐れることです。そして、神はただ聞いておられるのです。修辭的だと思います。

「わたしを恐れないのか？ なぜなら、あなたが本当にわたしを恐れているならば、このような会話はしていないでしょう。あなたが本当にわたしを恐れているならば、わたしはあなたを懲らしめる必要はないでしょう。本当にわたしを恐れているのなら、バビロンが攻めてきて、あなたを捕虜にすることを、わたしが許す必要はなかった。」23節。

23 ところが、この民には強情な、そむく心があり、彼らはわき道にそれて、去ってしまった。

24 彼らは『われわれに雨を与え、秋の雨と春の雨を時にしたがって降らせ、われわれのために刈入れの時を定められたわれわれの神、主を恐れよう』とその心のうちに言わないのだ。

25 あなたがたのとは、これらの事をしりぞけ、あなたがたの罪は、良い物があなたがたに来るのをさまたげた。

ここでもう一度、「わたしはあなたを繁栄させ、祝福し、あなたのために雨をもたらした。そしてあなたの返答は？ 反抗と反発。」ここでも、神の善意や神からの豊かさが、私たちの神への想いを奪うものにもなりうるということがわかります。これが、民に起こったことです。ダビデについて考えます。ちょっと思い浮かびましたので、手短かに。預言者ナタンがダビデに立ち向かったとき、この事例を挙げると、ダビデは

憤慨しました。そして、聖霊の型であるナタンは言います。「あなたがその男です。」(Ⅱサムエル 12:7 参照) そしてダビデは、ただ崩れ落ち、砕かれるのです。最後に、ダビデが、やっとです。どれほどの間... 詩篇の中で、その時の様子が描かれていますね。一年近く経っているようです。心の中は死にかけていたのです。そして、ついに、悔い改めたのです。神が預言者ナタンを通してダビデに仰ったことが、とても興味深いのです。こう仰るのです。

「ダビデよ、わたしはあなたに全てを与えた。あなたに何も差し控えなかった。わたしは、あなたの想像をはるかに超えて、あなたを豊かに祝福した。わたしがあなたのためにしなかったこと、あなたに与えなかったことが何かあるだろうか？」ああ、それはまさしく、真に、間違いなく、ダビデの心に突き刺さったはずです。この人は、神の御心に適った心を持っていたのです。

「ああ...あなたはずっと私に良くして下さっていたのに。私に多くのものを与えて下さった。」26 節。
皆さん調子はどうですか？ もうすぐ終わります。大丈夫ですか？

26 わが民のうちには悪い者があって、鳥をとる人のように身をかがめてうかがい、わなを置いて人を捕える。

27 かごに鳥が満ちているように、彼らの家は不義の宝で満ちている。...

かなりの描写ですね。

...それゆえ、(ここで再び) **彼らは大いなる者、裕福な者となり、**

28 肥えて、つやがあり、その悪しき行いには際限がない。彼らは公正に、みなしごの訴えをさばいて、それを助けようとはせず、また貧しい人の訴えをさばかない。

補足で、興味深い余談です。それがソドムの罪だったと知っていましたか？ 私たちはいつも、ソドムとゴモラの罪が単なる性的倒錯であると結びつけてしまうのです。しかし、エゼキエル書の記述を読むと、ソドムとゴモラの罪は、貧しい人、無力な人、父親のいない人を顧みなかったことです。(エゼキエル 16:49 参照) ヤコブの手紙でも、ちょうどそのことを読みましたね？「あなたは自分は宗教心に熱いと思い込んでいる。わたしが受け入れる純粋な汚れのない宗教心は、自分の面倒を見れない人や孤児ややもめのような、お返しができない人の世話をすることです。」29 節。

29 主は言われる、わたしはこのような事のために、彼らを罰しないであろうか。わたしはこのように民に、あだを返さないであろうか。」

またもや、これには誰もが凍りつく思いでしょう。30 節と 31 節を聞いてください。

30 驚くべきこと、恐るべきことがこの地に起っている。

31 預言者は偽って預言し、祭司は自分の手によって治め、わが民はこのようにすることを愛している。

...

ここで質問です。

...しかしあなたがたはその終りにはどうするつもりか。

なんという告発でしょう。預言者たちから始めましょう。彼らは偽りを預言していました。偽預言者です。祭司はどうですか？ ああ、彼らはその権力の中で、墮落していたのです。そして、もしそれで十分悪くないなら、民はどうでしょう？ Prophets/預言者、Priests/祭司、People/民 3つのPとでも呼びましょうか。いいじゃないですか。偽預言者がいて、墮落した祭司と、民がいます。おお、彼らはこのようにすることを愛しているのです。もしかしたら、それが理由です。私はイザヤ書のことばを参照し続けています。「心地よいことだけを語れ」(イザヤ 30:10 参照)

「私たちの耳が聞きたいことだけを語ってください。私たちが聞きたいことを語ってください。そうしてくれるのが、大好きなんです。嘘を語ってください。真実は語らないでください。真実は聞きたくありません。どうぞ、偽りの預言をしてください。」これは…言葉は悪いですが、かなり意図的なものです。しかし、民は、預言者が偽りの預言をし、祭司が自分たちの腐敗した権力によって支配することを、奨励していたようです。民はそれを愛していたのです。

「民はこのようにすることを愛している。しかし…」これがこの章の終わり方です。「…あなたがたはその終わりにはどうするつもりか？」それが質問です。その時、あなたがたはどうするのか？ “もし来たら”ではなく、“その時” 終わりが来る時、あなたがたはどうするのか？ なぜなら、これまであなた方には偽預言者がいて、権力によって墮落した祭司がいて、そのすべてを愛してきたからです。その時が来た時、あなたがたはどうするのか？ その終わりにはどうするつもりか？聖書の学びをこのような形で終わらせるのは、とても残念ですが、もしそうしなかったら、彼らに裁きが下ったことを、まさにする事になります。和らげるようにして…

「ねえ牧師さん、私たちに何か暖かくて柔らかいものを残してくれませんか？」いいえ、私には出来ません。なぜなら、私にはそんな権限はないのです。私たちが今夜ここを出て、家路につき、夜を終えるとき、自問してみるのも良いかもしれません。「終わりには、私はどうするつもりなのか？」終わりには、私はどうするのか？ お立ちください。カポノ、上がって来て下さい。「驚くべきこと、恐るべきこと」？
驚くべきこと、恐るべきこと

主よ、このような時こそ、あなたの御前にひれ伏し、あなたの憐れみを請い願います。おお、主よ、私たちを憐れんでください。私たちが、「彼らは恐ろしいこと、忌まわしいことをした」と言われるような人たちに数えられぬよう、神に祈るばかりです。

主よ、私たちがこの警告を心に留めることを祈ります。なぜならこの警告は、こんにちの私たちに非常に当てはまっているからです。終わりには、私たちはどうするのか？ 裁きが来るからです。主よ、私たちの心が硬くならず、柔らかくなるように祈ります。

主よ、あなたの重い御手が私たちの上にあるとき、私たちが砕いてくださるよう祈ります。私たちは、ある人が適切に表現したように、シューッと噛みつく蛇とは対照的に、砕け散る虫のようでありたいと思います。主よ、私たちはしばしば、虫ではなく蛇のようになります。砕かれないのです。主よ、お赦してください。この難しい御言葉に感謝します。厳しいことですが、私たちはそれを聞く必要があります、心に留める必要があります。そして、唯一それを心に留めることができるのは、私たちに宿っている聖霊の力によるのです。なぜなら、聖霊がいなければ、私たちは聖い人生を送る望みはないからです。ですから主よ、聖霊によって、私たちのうちに、私たちのために、私たちを通して、そのようにしてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7